

—Contents—

- P1 ミニ知識 「ウクライナ」と「ロシア」
- P2 再生可能な発電には、再生可能な蓄電の方法を！／コラム「風に吹かれて」
- P3 体験的気候変動
- P4 鴨川市池田区メガソーラー計画の現状について
- P5 異常気象はお友達
- P6 4つの人災—原発事故・コロナ禍・戦争そしてオリンピックも
- P7 政府が本気を出しさえすれば、再生可能なエネルギーへの転換は早い！
- P8 2つの巨大地震情報と再処理工場の竣工・本格操業をめぐって

ミニ知識 「ウクライナ」と「ロシア」

「ウクライナ」

国土面積—60万3550k㎡ 人口—4390万人 首都—キエフ
言語—ウクライナ語、ロシア語、タタール語

旧ソビエト連邦の国ウクライナは、1991年に独立共和国となりました。豊かな穀倉地帯があり、「ヨーロッパのパンかご」とも呼ばれます。

「ロシア」

国土面積—1709万8242k㎡ 人口—1億4170万人 首都—モスクワ
言語—ロシア語、タタール語、ウクライナ語、チュバシ語。

ロシアは世界最大の面積を誇る国です。東ヨーロッパからアジア太平洋岸まで、11のタイムゾーンと2つの大陸にまたがっています。ロシアを2つに分けるのはウラル山脈です。東部のシベリアの荒野にあるヤクーツクの東のオイミヤコンという村は人間が住む場所の中で世界一寒いとされ、冬になると気温が-50度を下回ります。歴史的には、かつてはツァーリとよばれる君主に治められていました。1917年の革命で共産主義者が支配権を握りソビエト連邦が出来ましたが、1991年に崩壊しました。

野生生物には多様な環境があり、ユーラシアオオヤマネコ、アムールヒョウ、アカシカ、ヒグマ、シロイルカ、コウノトリ等が暮らしています。

(世界の国ぐに大図鑑 2021年版より)



再生可能な発電には、再生可能な蓄電を！

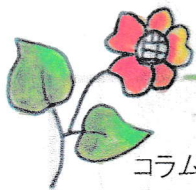
武笠 敏夫（松戸市）

最近、地球温暖化とか気候変動の話をよく耳にします。この原因が、人間がエネルギー源として使ってきた化石燃料によることは確かのようにです。その代わりに再生可能エネルギーを使用すればよいのですが、これは出力変動があつて、それを平滑化するために蓄電する必要があります。しかし、今のところ実用化されている蓄電方法は、蓄電池(化学バッテリー)と揚水発電しかありません。

揚水発電は余剰電力で水をダムに汲み上げておくものですが、ダムをつくる余地はもうありません。この方法は水に働く重力のエネルギー(位置エネルギー)として電力を溜めておくものです。これと同じ原理で、水の代わりに重りを用いれば、重力を利用した新しい蓄電方法が考えられます。すなわち、余剰電力で重りを上部に吊り上げておき、電力が必要になった時に、重りの落下により発電機を回して再び電力を得る方法です。この重力を利用する蓄電方法(重力蓄電)は平地に設置可能で、山地のない地方や国でも建設ができます。重要なことは、この重力蓄電は廃棄物を出さず、原理的には半永久的に使用できることです。再生可能な方法で得られた電力は、再生可能な方法で溜めて利用すべきです。

この方法で、完全な電力の地産地消(オフグリッド)が可能となります。例えば、家庭用オフグリッドを考えて、1日の消費電力を平均10キロワット(kw)とします。これを太陽光発電で賄うとして、ソーラーパネルを10枚ほど用意します。これで生成された電力を重力で蓄電するならば、7m四方の建物の中に蓄電装置を収納することで可能となります。これは住宅密集地では無理ですが、敷地内に土地が確保できれば設置可能です。ただしこれは理論的な数値であつて、エネルギー損失の分は考慮に入れていません。詳細は以下のホームページをご覧ください。

重力再生エネルギー研究所 <https://www.jsek.jp> 武笠 敏夫



コラム

「風に吹かれて」

柘植 扶佐子（松戸市）

今回は、ネガティブになりがちな日々々に元気と勇気をもたらえたポジティブな言葉を挙げてみました。

- ・昔を振り返るのはやめにしよう。大切なのは明日何が起きるかだ。(スティーブ・ジョブス)
- ・人を信じよ。しかし、その百倍も自らを信じよ。(手塚 治虫)
- ・今は無いものについて考えるときではない。今あるもので何が出来るかを考えるときである。(ヘミングウェイ)
- ・しあわせはいつも、じぶんの心がきめる。(相田 みつを)
- ・下を向いていたら、虹を見つけることは出来ないよ。(チャールズ・チャップリン)
- ・人の世に道は一つということはない。道は百も千も万もある。(坂本 龍馬)
- ・念ずれば、花ひらく(松戸市 西蓮寺の入口に書いてあつた標語)
- ・夜明け前が、一番暗いのよ

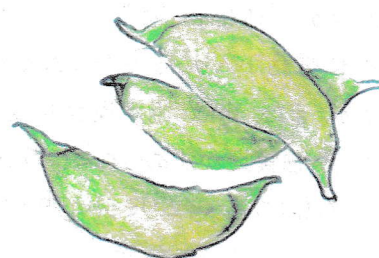
(緑の党千葉の総会の時、会員数が減って来ているとの言葉に、議長の武笠さんが発したことば)

体験的気候変動

田中 正治（鴨川市）

十数人の友人たちと一緒に、1反ほどの棚田で米作りを楽しんでいます。「遊学の森トラスト」というグループです。山間地でイノシシが年々増えるので電気柵で防衛。今年で17年目になりますが、13年目くらいから田んぼには草が生えなくなりました。トロロ層（イトミミズの発生によって作土層の上部にできる、滑らかで有機物に富む膨軟な層）により、土の中の雑草の種子に太陽光線が届かず発芽できないのかもしれません。

草取りをしなくてもよくなったのはめっちゃ楽ですが、最近ではゲリラ豪雨が悩みの種です。地球温暖化による気候変動というやつかもしれません。もう6年前になるかな、9月初旬の稲刈り時にゲリラ豪雨が連発。田んぼは重粘土質なのでどろどろで足がとられて、例年は1日で稲刈りが終わるのに仲間も僕もへトヘト、ギブアップ気味。そこに女性が3人助っ人に飛び込んできてくれました。地域通貨「安房マネー」の友人たち。聞くと、田んぼをやっている地域通貨の仲間もゲリラ豪雨で悪戦苦闘しているとのこと。みんなネットで情報交換しながら互いに助けに入っているのだと。この時ほど地域通貨と仲間のありがたさを感じたことはありません。



話は変わりますが1990年初頭、僕は地球温暖化 STOP とオゾン層保護運動をしていました。「オゾン層保護プロジェクト・フロンバスターズ」というグループで、グリーンピースと提携し、川崎市などのごみ収集所に集められた廃棄冷蔵庫のフロンをフロン回収機で回収するといった活動を通して、神奈川県下の10数市にオゾン層保護の条例を制定するよう交渉しました。次第に地球の温暖化も明らかとなってきたところで、グリーンピースの始めた気候キャンペーンにも関わりました。グリーンピースが言っていたことは、地球の対流圏が温暖化すると、対流圏が成層圏を押し上げ、対流圏内の気候変動を大きく激しくする。台風は大型になり、砂漠が広がり、他方で豪雨が頻発化する。シベリアの永久凍土が解けてメタンが放出され温暖化は加速する、両極の氷が解けて海水の水位が上昇する、などなど。それらが、今まさに現実になっていると実感します。



鴨川市池田区メガソーラー建設計画の現状について

勝又 國江（鴨川の山と川と海を守る会 代表）

人口 32000 人の町に、森林伐採型では日本最大級のメガソーラー建設が計画され、国の認定が下りてから今年の4月で8年になります。東電との接続契約から4年、県の林地開発の許可が下りてから3年が経ちますが、未だに工事は着工されていません。事業が今頓挫しているのは、事業者自身が抱えている問題が招いた側面が多々ありますが、私たち市民による、事業者や行政へのプレッシャーが大きく働いていることの証でもあると思っています。

反対運動は4年半前に一部の移住者から始まりましたが、もともとの地元民に如何に広げていくかをモットーに活動してきました。鴨川市漁業協同組合など5団体が連携して取り組むことになり、大きな力となりました。県や市に対する要請行動、毎回の定例市議会での反対議員の一般質問、「通信」の新聞折り込み・郵送・戸別配布、反対署名集め、集会の開催、カンパなど、大勢の市民がそれぞれできることを寄せ合ってきた成果に他なりません。

林地開発許可期間を過ぎた 2021 年 5 月から 3 回の延長申請で 3 月 31 日までの「休止届」が事業者から出されています。「休止届」期間中にボーリング調査など 3 度の無断行為が発覚しました。全て近隣住民の方々から「守る会」に電話が入り、速やかに県や市に通報しました。県は条例違反と断定し「廃止届」を出すように強く申し渡しています。また、市は「協定違反」と厳重抗議し、法的手段も辞さないと事業者に厳しく対処しているところです。

施工会社や融資元が決められない状況が続き、既に始まっている買取期間(20 年間)の短縮は、事業者にとつて採算が合わなくなるタイムリミットが迫っているということです。今後もこの包囲網を緩めることなく、計画を撤回に追い込みたいと思っています。

事業概要

【事業地】約 250ha 【森林伐採面積】約 146ha 清澄山系の一角、最大標高 250m ながら無数の沢が急峻な山肌を形成（大半は「崩壊土砂流出危険地区」に指定されている）尾根を最大 60m 削り（切土）、谷を最大 80m 埋める（盛土）
【土砂の移動量】約 1300 万 m³ (10t ダンプ 220 万台分) 土砂を平らにしてパネル約40万枚貼る

私が鴨川で避放射能子ども保養所の活動やメガソーラー建設反対運動を行う上での心情に響く詩を見つけました。ご紹介します。

あとからくる者のために

仏教詩人 坂村真民（さかむらしんみん）

あとからくる者のために
田を耕し
種を用意しておくのだ
山と川と海を
きれいにしておくのだ
ああ あとからくる者のために
苦労し
我慢をし
みな それぞれの力を傾けるのだ
あとから あとから続いてくる
あの可愛い者のために
みなそれぞれ自分で出来る
何かをしてゆくのだ



異常気象はお友達

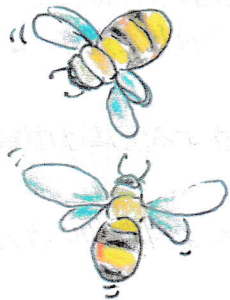
吉田 あち(篤) (流山市)

「地球温暖化と異常気象」について書けとのことだが、農家にとって異常気象は毎年どこかであるし、甚大な被害も10年に一度くらいはある、たぶんほかの国でも同じだと思う、だから百姓にとって「異常気象は」へのかっぱだ、「温暖化」においても大きな被害も出ていない。

●この50年、「いつか変わる」と希望を

確かにこの20年は暖かかった、以前の冬は底冷えが強く、長靴の底に新聞紙を敷いたり唐辛子を入れたり、いやけどつま先ホッカイロなどでしのいだが、ここ10年以上そんな寒さはない。夏の暑さも強烈ではなくなっている。しかし毎年最高濃度を更新するCO₂と氷河の消滅、世界で日々起こる洪水や早魃、広大な山火事やアマゾン開発などのニュースに胸を痛め、西欧の若者たちの抗議行動に「がんばれ、もっとやれ」と声援を送ってきた。毎年状況は悪化するばかりのこの50年、「いつか変わる」と希望を捨てなかったが、やっとその変化の芽がこの世界に出てきた。企業も政府も本気で考え行動を起こし始めた。

日本の農政を政府に提起してきたのは経済界である、小さな農家とJAが主題でありまったくひどかった。



●日々有機の百姓を続けて

しかし今年から新会議団体ができ、キューピーやマクドナルドなどの食品企業、消費者団体、JAなどで議論が始まり、有機農業の大胆な推進などが最初から話されている。実際に予算化されるのは来年度からだが大いに期待しよう、みんなで注目をし、外からもどんどん提言していくべきである。「脱炭素社会」と並行して「脱化学物質社会」「除草剤禁止法」などをぜひ進めてほしい、人類の災難より虫や鳥、魚たち、動物などの命の壊滅的減少のほうがはるかに気になる。流山も開発が一機に進み農家や市民の除草剤使用が拡大し、生き物たちが急激に減っているのは明らかに目に見える。水路にはめっきり魚たちが減り、賑わっていた釣り人たちは今ではほとんど来なくなった。20年前には田植えの頃、工事現場かと間違えるほどのカエルの大合唱があった。雨上がりの早朝の田んぼ道には多くのカメやヘビたちが跋扈してとても邪魔だった。懐かしい思い出ではなく、将来的に復活させたく、ただ日々有機の百姓を続けていくよ。



4つの人災一原発事故・コロナ禍・戦争そしてオリンピックも

小林 孝信（「オリンピック災害」おことわり連絡会）

● コロナと五輪

このふたつはよく似ています。コロナは、人間の過剰な自然破壊による、これまで住み分けていた知られざるウイルスの人間社会への侵出が原因だろうといわれています。実は、五輪もまた「平和のための祭典」どころか、侵入してくる災害とっていいのです。

五輪憲章では個人参加となっていますが、実態は国旗掲揚に国歌斉唱。国家意識の高揚は戦争の予行演習といえましょう。慧眼の人々は以前から、「平和の仮面をつけた戦争の素顔」を指摘してきました。

「国際競技会は憎悪の発端、戦争の模倣。観客は

この馬鹿げた競争、走り、跳ね、蹴りが国家の徳と信じる」

（『あなたと原爆 オーウェル評論集』）、

「林立する国旗は国家の出しゃばり。何か魂胆がある」

（『方舟さくらまる』安部公房）、

「五輪は国際的に容認された兵士礼賛」

（『死に急ぐ鯨たち』安部公房）。（一部要約）

● なぜコロナ下でも五輪（特に東京五輪 2020+1）を強行したか？

五輪には潜在的に戦争意識を植えつける国家主義のほかに、金(カネ。金メダル?)がすべての商業主義、招致ワイロ、野宿者と生活者の排除、「テロ対策」口実の情報コントロール、そしてなによりも原発、ジェンダー軽視や優生思想の差別主義の3大問題があります。それに加え、膨れ上がる開催費用と再開発利権隠しの「復興五輪」なども。

（『2020 東京五輪に反対する 21 の理由 ガイドブック』（「オリンピック災害」おことわり連絡会編）をご参照）

福島事故後も解除されず、加えてコロナというふたつの緊急事態の状況下で、こうした事情が、何が何でも開催を強行した背景にあります。たとえ、原発事故被曝者や避難者が苦しんでいようとも、コロナで病人が死のうが、国益(実態は政官財のトップの利益)のため、金のためといえます。

上記の同会は 17 年 1 月に結成され、講演会や集会の開催、資料やパンフを発行。19 年 7 月、五輪 1 年前行動を企画、1 週間連続で行動し、新宿デモでは世界十カ国以上からの参加者がありました。20 年、21 年も被曝地の福島をはじめ各地でのスタンディング、聖火リレー、開・閉会式の反対行動などを続けてきました。（なお、NHK はその活動を捏造して放映したため、現在謝罪を要求中です）

【会の連絡先】 info@2020okotowa.link



政府が本気を出しさえすれば、再生可能なエネルギーへの転換は早い！

武笠 紀子（運営委員）

自民党・公明党(自公)による政府与党は本気で再生可能エネルギーに取り組んでいない。そして「日本は資源が無い」という「ウソ」を広めている。『原発ムラ』の広めた「原発安全神話」と同じように、『石油・ガスムラ』が広めた「小資源神話」である。確かに、日本には石油・天然ガス、そしてウランはほとんどないが、エネルギー源はたくさんある。

福島第一原発過酷事故の時には、たまたま民主党政権であったが、それまで長く続いた自民党政権が「原子力の平和利用」と称して、地震と火山いっぱいの中に 54 基もの原発を造り、核燃料サイクルにも手を出した。そして 2011 年の事故を経験し、原発による大被害を受けたにも関わらず、鹿児島・佐賀・愛媛・福井で原発を稼働させている。どの県も自然環境豊かな魅力ある県で、再生可能エネルギーも豊かである。九州電力では、原発稼働(川内・玄海)で電気が余り、たびたび太陽光発電の電気の受け入れを遮断している。

昨年、自公政権は、エネルギー基本計画に 2030 年「原発 2 割」と書き込み、発電時に二酸化炭素を出さないから「原発は環境にやさしい」と主張（石坂浩二のテレビ CM 等）。実際には、原発稼働のために多量の石油やガスが使われていることを隠し、10 万年は放射能が残る「核ゴミ」処分問題には触れない。さらに驚くことに、次世代エネルギーと称して、水素・アンモニアを「輸入」して使うと書いてある。



『原発ムラ』と『石油ムラ』に『水素ムラ』も加わって、自公政権が続くかぎり、日本にある再生可能なエネルギー資源は生かせない。太陽も風も小水力も、地熱もバイオマスも、ぐるりと日本の周りを囲む海流・潮流も有力なエネルギー資源だ。外国から輸入しなければならないウランや石油・天然ガス、水素・アンモニアに頼らず、国内に「再生可能なエネルギー資源」がたくさんあるのだから、政府が再生可能エネルギー事業へ政策を転換し、本気を出して支援すればエネルギー転換は早い。

ドイツは、今年末に原発ゼロとなる。ドイツのように『緑の党・グリーンズジャパン』が政権に加わって、エネルギー政策の転換を進めていきたい。



2つの巨大地震情報と再処理工場の竣工・本格操業をめぐって

吉野 信次 (ピースサイクル 22 全国ネット)

● 公表された2つの巨大地震

昨年 12 月 21 日、内閣府は、日本海溝沿いと千島海溝沿いで起きる2つの巨大地震を巡り、被害想定を公表した。最悪のケースで、日本海溝地震の場合はマグニチュード(M)9.1、最大震度7の揺れで、最大 30メートルの津波となる。約 19 万 9000 人が死亡し、約 22 万棟の建物が全壊・消失し、避難者数は約 90 万人余。経済的被害額は約 31 兆 3000 億円。

千島海溝地震では、M9.3、最大震度7。死者約 10 万人、避難者数は約 48 万人余。全壊約8万 4000 棟、経済的被害額は約 16 兆 7000 億円。

2つの巨大地震は、別々に発生することを想定。私たちは、これだけの厳しい想定をしなければならない現実が迫ってきているのだということをしかりと受け止めて生活しなければならない。

● 原子力関連施設に巨大地震が襲うとき

ところが、被害地域の真ただ中にある青森県下北半島には、「原子力半島」といわれるほど核物質を扱う原子力関連施設が数多くある。六ヶ所村の再処理工場をはじめとし、高レベル・低レベル放射性廃棄物保管施設、ウラン濃縮工場、貯蔵センターなど。さらに東通原発があり、むつ中間貯蔵所、大間原発が建設されだしている。こうした原子力関連施設は、2つの巨大地震に襲われても安全性が担保できるのか。

今年秋には日本原燃(株)が、再処理工場の竣工・本格操業を始めようとしている。再処理工場が本格操業すれば、通常の運転で原発1基が1年間に大気と海に放出する放射性物質を、1日で放出するほど汚染がすさまじい。

私たちピースサイクル全国ネットワークでは、この 27 年間、六ヶ所村や下北半島に出かけて「原子力半島化」する現実を見つめ、再処理工場の運営主体である日本原電(株)や、受け入れてきた六ヶ所村や青森県に対して、重大事故の発生や巨大地震に襲われたときの避難計画等について多くの質問と提案をしてきた。ところがその回答は、どのような災害が起きても、安全に管理され、被害の心配はないと言いきり、核物質の最終処分場となる危険性も否定されている。福島第一原発の過酷事故から何も学んでいない。再処理工場が竣工・本格操業前に2つの巨大地震の被害想定が公表された以上、もはや真逆のことを実施してはならないことは誰でもがわかることだ。私たちは、再処理工場の竣工は直ちにやめろ！と大きな世論にしていきたい。

『グリーンズ千葉』は、千葉で「緑の社会」の実現をめざして活動します。「緑の社会」とは、すべての生命を大切に、公正・平等・非暴力で、多様性を尊重し、みんなで政治に参加する持続可能な社会のことです。

〒 271-0092 千葉県松戸市松戸 1879-24 ほくとビル5F

Tel/Fax 047-360-6064 <https://greens-party-chiba.jimdo.com/>

入会・カンパ募集中！ 郵便口座:00120-1-687008

